

2021年12月5日

東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」2021

フォーラム「高等学校における日本語指導体制の整備に向けて」

公開ヒアリング資料3

# 市川工業高校の 外国人生徒等教育

令和3年12月5日(日)

千葉県立市川工業高等学校

副校長 高野 裕

# 1 千葉県立市川工業高等学校 定時制の課程について

---

学校案内(別紙1)

## 2 これまでの取組①

### 文科省委託事業概要

- 平成30年度～令和2年度  
「高等学校における**次世代の学習ニーズ**を踏まえた指導の充実事業」  
※ 令和2年度は事業名変更「多様性への対応に関する調査研究事業」
  - 千葉県の取組  
「定時制高等学校における日本語指導を必要とする生徒への支援体制の構築」  
(**個に応じた日本語指導の充実**に向けた学校の**教育力の向上**)
- 指定校
- 千葉県立生浜高等学校 (三部制定時制高校 普通科)
- 千葉県立市川工業高等学校** (定時制工業高校 工業科)

### 3 これまでの取組② 千葉県取組

---

千葉県公立学校入学者選抜では、県内の全日制高校12校、定時制高校4校で外国人の特別入学者選抜が実施されている。

日本語指導を必要とする生徒の数は、**年々増加**している。

このような状況に対応するため、次のような取組を行っている。

- ① 外国人児童生徒の日本語指導担当者連絡協議会の開催
- ② 外国人児童生徒等の母語を理解する**外国人児童生徒等教育相談員の派遣**

定時制高校においては、外国人生徒の増加が著しく、この問題は、まさに高等学校の次世代の学習ニーズということで、前出の2校が文科省委託事業の指定校となった。

## 4 これまでの取組③

### 3年間の指定を終えて

市川工業高校における、外国人生徒に対するサポートの基本的な体制構築はできた。

日本語基礎講座「**レインボールーム**」の設置と実践的運用の開始

レインボールームの目的

- 1 授業についていけるだけの日本語力を身に付けること(0時限目)
- 2 日本語能力試験N3受験(**余裕のある生徒** 夏休みの集中講座)

- ① レインボールーム 授業略案 ([資料2](#))
- ② レインボールーム 授業教材 ([資料3](#))
- ③ 外国人生徒 生徒個人カード([資料4](#))

# 5 今年度の状況①

## 外国人生徒等数(国別)

令和3年5月1日現在 **20名**

内訳			
中国	4名○	ベトナム	1名○
フィリピン	4名	スリランカ	1名
ペルー	2名○		
アフガニスタン	5名	○	外国人児童生徒等教育相談員
ミャンマー	1名		
ネパール	2名○		

## 6 今年度の状況② 外国人生徒等数(学年別)

令和3年5月1日現在

在籍86名中の外国人生徒20名の割合 **23.3%**

内訳

<b>1年次</b>	<b>在籍21名</b>	<b>外国人生徒7名</b>	<b>33.3%</b>	<b>日本語基礎講座</b>
2年次	在籍29名	外国人生徒7名	24.1%	
3年次	在籍17名	外国人生徒2名	11.8%	
4年次	在籍19名	外国人生徒4名	21.1%	

## 7 今年度の状況③

### 外国人生徒指導の現状

---

1年次 外国人生徒 7名

日本語基礎講座を**教育課程上に位置付け**ている。 (資料1)

「レインボウルーム」

これを実施するために、0時限目を設定 16:30～17:15

令和3年度入学生 週4日実施

令和4年度入学生 週3日実施 (新教育課程；資料1)



## 8 今年度の状況④

### レインボウルームについて

---

- 1年次の外国人生7名が日本語基礎講座の受講対象者となる。
- 年度当初に**個人カード**で日本語の力について**聞き取り**をしている。  
※7人の生徒の日本語力はそれぞれに差がある。
- 日本語基礎講座の**指導**についていけず、**欠席がかさむ**生徒もいる。
- レインボウルームに全て参加している生徒でさえも、日本人の生徒と同じ教室で授業を受けることは**難しい**。

## 9 今年度の状況⑤

### 外国人生徒の指導体制

---

- ・今年度、日本語基礎講座には、3名の教員を配置している。  
英語1名（主担当）、国語1名、理科1名
- ・外国人生徒の増加と日本語力のばらつきのため、共通の指導ができず個別に対応している。
- ・とても3名の教員だけでは対応できない。  
※英語でのコミュニケーションさえもとれない。

# 10 今年度の状況⑥

## 外国人児童生徒等教育相談員

- ・コミュニケーションがとれなければ、学校としてニーズに応えられない。
- ・外国人児童生徒等の**母語を理解し、コミュニケーションが図れる**指導員として、外国人児童生徒等教育相談員が配置されている。
- ・令和3年度から、効果的に相談員を機能させる目的で、コーディネーターが配置された。（相談員を兼ねている）

令和3年 4月 3名配置

令和3年10月 1名配置

現在は**計4名**

# 11 次年度への課題①

- ・外国人生徒への日本語指導は、現状では生徒が日本人とともに授業を進められるレベルまで持って行くことは難しい。

(現状)

- ① 教室で授業に参加する意欲をなくしてしまう。
- ② 学校生活がいやになってしまう。

(結果)

- ① 単位を落としてしまう。4年間で卒業できなくなってしまう。
- ② 学校をやめてしまう。

(課題)

学ぶ喜び、理解できたときの喜びを体感させることが重要である。

## 12 次年度への課題②

・令和4年度には、外国人児童生徒等教育相談員の増員を県教委は計画している。  
(現状)

① 外国人生徒の増加で、**多言語対応が必要**になった。

② 毎年、入学してくる生徒の**言語が異なる**。

(結果)

① 教員3名、相談員4名でも対応しきれない。

② 全ての生徒に対応できるだけの相談員を配置することは難しい。

(課題)

指導員と生徒間の**コミュニケーションの機会**を積極的に増やすとともに、**外国人生徒間で日本語をツールとしたコミュニケーションの機会**をつくっていくことが大切である。

# 13 まとめ①

## マクロな視点で捉えると

市川工業高校では、年々増加する外国人生徒に対して、これまで述べたような取組を行ってきた。しかし、現状では、日本語基礎講座での学びだけでは、日本人とともに教室で学びを深めていくレベルまで到達できる生徒はごく少数である。もちろん相談員は、通常授業内にも入ってサポートしているが、**全てではない**。一方、指導する立場から考えても、通常の教員免許状しか持たない教員に、日本語指導を担当させることは、**大きな負荷**になるだろうと考える。また、これまで指導に当たってきた教員が異動になれば、**体制が大きく変化**する。

以上のことを考えても、現状のままでは、増え続けている外国人生徒に対するサポートを充実させることは**難しい**。

## 14 まとめ②

# ミクロな視点で捉えると

本校だけの問題と捉えるならば、課題にも示したが、学ぶ喜び、それを感じ取るための、**日本語による積極的コミュニケーションの場**を創出し、**実践的な日本語を学ぶ（使う）コミュニティー**のような形態を構築することが有効なのではないかと考える。

例えば

- ①学校ならば**グループ学習**や外国人生徒同士で**教えあうような機会**の創出
  - ※ 全ての教科科目に盛り込む、新しい教育課程の目指すところ
- ②学校外なら**積極的コミュニケーションの機会**の場の創出
  - ※ **地域ボランティアとの交流**、アルバイトなど

**生徒一人一人がツールとしての日本語の必要性を感じる事が重要**